

平成28年度 教育事業

自然体験活動指導者養成研修②

- 1 趣 旨 青少年をはじめとする多くの人々に対し、自然体験活動等の指導・支援及び推進ができる指導者の養成・確保を図るとともに、大隅青少年自然の家ボランティアの資質向上に資する。
- 2 期 日 平成28年10月15日（土）～16日（日） 1泊2日
- 3 対 象 者 高校生・大学生・一般（18歳以上、短大・専門学校生を含む）
- 4 募集定員 10人程度
- 5 参 加 者 25人
- 6 指 導 者 国立大隅青少年自然の家職員
ボランティア1人

7 日程と主な活動

10月15日（土）	10月16日（日）
9:30 受付	6:00 起床・清掃
10:00 開講式・ガイダンス	7:00 朝のつどい
10:30 講義「自然体験活動の特質①」	7:30 朝食（レストラン）
12:00 昼食・更衣	9:00 実習「自然体験活動の技術」
13:00 演習・実習「対象者理解」	11:00 講義・演習「自然体験活動の指導」
14:00 演習・実習「自然体験活動の特質②」	12:30 昼食（お弁当）
16:30 実習「野外炊飯」	13:30 認定試験
20:30 入 浴	14:00 別れのつどい
22:00 消 灯	14:30 解 散

8 事業運営

- （1）「全国体験活動指導者認定制度」の自然体験活動指導者（リーダー）カリキュラムに則って、事業を進めた。
- （2）より実践的な学びとなるよう、演習や実習を多く取り入れ、参加者自身が考えるながら理解していく内容とした。
- （3）NEALコーディネーター取得者を指導補助として関わってもらい、NEALの指導者像について具体的にイメージできるようにした。



9 事業の実際

- （1）第1回研修（6月）から間隔が開いたため、講義「自然体験活動の特質①」では、前回のポイントの確認を交えながら講義を進めた。
- （2）午後からの演習では、オリエンテーリングを切り口に、対象に応じた活動のアレンジについて話し合ったり、実際に体験するなどした。

- (3) 「野外炊飯」では、チームを意識しながら活動した。前回からメニューの難易度を上げたが、実際に指導する場を想定しながら、役割分担を行い、スムーズに活動に取り組むことができた。
- (4) 荒天のため、海浜での活動（カヤック）を行うことができず、急遽スポーツライミングに活動を切り替えた。その際、安全管理マニュアルを配布し、実施の可否を判断する基準について話し、安全管理の基本についての再確認を行った。
- (5) 既に6月に顔を合わせているメンバーだったため、参加者はすぐに打ち解け、話し合いなどにも積極的に参画するなど、なごやかな雰囲気で行進できた。
- (6) 講義・演習「自然体験活動の指導」では、これまでの研修をふりかえりながら、子供との関わりについて自分の考えを整理し、それぞれの想いについて全員で分かち合った。
- (7) 履修認定試験は、選択と記述を織り交ぜ、やや難易度を上げた問題構成としたが、昼食時間も惜しみ直前まで資料を読み込んでいる姿もあり、全員無事に合格できた。

10 参加者の感想

- 実践的な内容で、楽しみながらスキルを身に付けることができました。
- 同じ志を持った仲間との交流で、指導に対する思いが強くなったとともに、身が引き締まりました。
- 今回身に付けたことを、現場で活用できるよう日々精進します。

11 成 果

- 自然体験活動指導者資格をとるという共通の目的を持って集まった者同士、非常に前向きな雰囲気で講習を進めることができた。
- 一方的な知識の詰め込みではなく、体験しながら理解を深めることを主眼に置き、互いに問いかけるなど双方向型の研修を目指した。参加者からは、「断片で理解していた知識が繋がった。」など、好評であった。
- 荒天によりプログラムの変更を強いられたが、事故防止のための最初の判断について参加者に伝えるよい機会となった。

